

底トシ國民黨トノ合作ヲ遂行スルコトニアリテ以テ英國ノ  
對支政策ヲ妨ケス且對日反抗ヲ助成セントスルニアリ以上

ノ大體ノ方針ニ依リ宣傳其ノ他凡ユル方法ヲ動員シ居ルモ  
ノナルコト疑ナク滿洲國ニ於ケル共匪ノ如キハ連日「パル  
チザン」ノ活動トシテ「タス」ニ報道セラレ居レリ右ハ日

獨協定成立以來日本對抗策ノ重要ナル手段トシテ活用セラ  
レ居ルモノナルコト明カナリ蘇側ノ内情ニ精通セル「デュ  
ランチー」ト會談ノ機ニ彼ハ支那ニ於ケル蘇側活動ノ有效

ナルヲ說キ本使ノ意見ヲ求メタルニ付蔣介石ハ支那ノ愛國  
者ニシテ日本ニ對抗スル爲ニ赤露ニ國ヲ賣ルカ如キ者ニア  
ラサルヲ答ヘタルニ「デュランチー」ハ蔣介石ハ兎モ角支  
那ニ於ケル形勢ハ然ラストテ頻リニ之ニ反對シ蘇側ハ支那  
ニ於ケル活動ニ非常ニ自信ヲ有シ單ニ學生等ノ思想方面ノ  
ミナラス政治的ニモ南京政府ヲ抱込ムノ自信ニ満チ居ル狀

況ハ自分ノ蘇側首腦部トノ接觸ニ依リ明カニシテ日本側ハ  
樂觀ヲ許ササルヘシト述ヘ居レリ何等御参考迄

在歐各大使(土ヲ除ク)、滿ヘ暗送セリ

~~~~~

在歐各大使(土ヲ除ク)、滿ヘ暗送セリ

~~~~~

#### 4 米国およびその他諸国との関係

1118 昭和11年2月6日 在米国齋藤大使より  
広田外務大臣宛

対中財政専門家派遣中止の経緯および米国極  
東経済視察団長の帰国後の言動に関する四  
国借款団米国代表の内話について

機密公第一〇一號

(接受日不明)

昭和十一年二月六日

在米

特命全權大使 齋藤 博

「ラモント」トノ會談報告ノ件

本使紐育出張ノ際二月一日「ラモント」ト會談ノ機會アリ  
タルカ難談中言及セラレタル事項中御参考トモ相成ルヘキ  
點左ニ報告申進ス尙本件談話ノ内容ハ一切他ニ引用セラレ  
サル様特ニ御注意相成度爲念併セテ申進ス  
「キヤメロン、フォーブス」ハ自分〔「ラモント〕ト大學  
モ同級生ニテ親シク附合ヒ居ルモ近頃同人ハ出來サル相

1117 昭和12年5月4日 在上海吉岡總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)

中国共産党やソ連大使館が太平洋集團安全保  
障条約締結を高唱しているとの情報について

上 海 5月4日後着 本省 5月4日後着

貴電合第二六二號ニ關シ  
第一〇三號

太平洋集團安全保障條約ハ西安事變後ヨリ共産黨側カ日本  
ノ侵略ヲ防止スル手段トシテ盛ニ其ノ要ヲ強調宣傳シ居ル  
所ニテ又最近外交部筋ヨリ出テタル諜報ニ依レハ蘇聯邦大  
使館員等ハ支那側要人ニ對シ之カ宣傳ニ努メ居ル趣ナルカ  
今ノ所ハ其ノ程度ニ止マリ各方面ニ對シ左シタル反響ナルカ  
模様ナリ

支 北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

談ヲ持掛け來リ困リ居レリ、ト申スハ外ニモアラス、由  
來支那ニ經驗少ナキ人カ支那ヲ始メテ研究シ出ス時常ニ  
陥ル誤リナルカ、支那ノ杉大ナル領土、夥多ナル人口ニ  
眩惑セラレ、其ノ將來ノ購賣力ニ過大ナル望ミヲ掛け、  
信用ノ問題サヘ都合ヲ附クル時ハ米支貿易發展ノ餘地大  
ナリトノ誤想ヲ懷キ、「フォーブス」ハ目下 Credit  
Corporation ノ成立ニ腐心シツツアリ、「フォーブス」ノ  
案ハ米國ノ支那ニ對スル「オブリゲーション」ヲ「パー  
ル」シ又三、四百萬弗ノ運用資金ヲ調達シテ此事業ニ充  
テムトスルニ在リ、而シテ「モーガン」商會ニ對スル  
「フォーブス」ノ希望ハ「モーガン」ノ關係シ居ル湖廣  
鐵道借款ニ關スル「オブリゲーション」及「パシフィツ  
ク、トレーディング、コンパニー」關係「オブリゲーシ  
ョン」ヲ「パー」セムコトニ在リ、然レトモ余〔「ラモ  
ント〕ノ見解ヲ以テスレハ此等「オブリゲーション」ハ  
支那側ノ契約不履行ニ依リ中斷サレ居リ何時再ヒ有效ト  
ナルヘキヤ見据付カス又三、四百萬弗ノ運用資金モ今日  
之ヲ投スル者有之筈ナク結局「フォーブス」ノ計畫ハ成  
立ノ見込全然無之モノト存ス

二、「サー、フレデリック、リース、ロス」トハ同人カ支那

出發前倫敦ニ於テ午餐ヲ共ニシタルカ同人ハ一言ニシテ

云ヘハ「スコットランド」人ニ獨逸人ノ頭脳ヲ付ケタル

如キ人物ニテ調査等ニハ第一人者ナルモ實務上ノ才幹ハ

之ヲ有セス、今回ノ如キ任務ニハ不適當ノ人物ナリシコ

トト思考ス、本件ニ關スル米國側ノ内情ハ始メ英國政府

ヨリ米國政府ニテモ「リース、ロス」派遣ト同時ニ何人

カ出張セシメラレタキ旨申入アリタルモ恰モ「モーゲン

ソー」大藏<sup>(長)</sup>次官ハ米國側ヨリ持出シタル貨幣價值宛定協

議ヲ英國側ニテ蹴飛シタル爲メカバカンニ怒リ居タル矢

先ニモアリ之ヲ肯セス依テ「リース、ロス」ハ倫敦ヨリ

手紙ニテ支那ニ調査員ヲ派遣セラレサルハ不得止トシテ

自分(リース、ロス)ハ渡支ノ途上華盛頓ニ出向親シク

御相談致置度事柄モアリ御都合伺ヒタシ、但シ若シ右カ

「エムバラシング」トノ事ナラハ加奈陀ナリ何レノ地ナ

リニテ相眉<sup>(舞)</sup>スルコトントモ可ナリ、或ハ代表者ヲ御派

遣アリテモ可然トノ趣旨ヲ申送リタル處(モーゲンソー)

ハ更ニ氣嫌ヲ惡クシ、人ヲ加奈陀ニ呼付クルトハ何事ソ

ト憤リ、遂ニ「リース、ロス」ト聯絡ヲ取ルコトヲ爲サ

1119 昭和11年3月9日 在広東河相總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国航空公司の広東・ハノイ間航空連絡を広  
東省政府が許可しない理由は軍事機密秘匿の

ためであるとの情報について

広 東 3月9日後発  
本 省 3月9日夜着

第七號 往電第六〇號ニ關シ

廣東省政府カ斷乎トシテ中國航空公司ノ佛印飛行聯絡ヲ阻

止シタル原因ニ付當館ノ得タル確報ニ依レハ同公司ノ飛行

機カ珠江ヲ遡リテ飛行シ空中ヨリ俯瞰スルニ於テハ地形及

軍事設備ヲ瞭然ト觀取セラルヘク這ハ一西南航空公司ノ問

題ニアラス廣東省今後ノ安全ノ爲之ヲ座視スルヲ得スト爲

ス陳濟棠ノ意見ニ基クモノナリ尙西南航空公司經理劉沛泉

ハ廣東廣西兩政府ノ命ヲ受ケ(多分本日發令)本件折衝ノ爲

南寧へ赴ク由

支、北平、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ香港、河内  
へ暗送セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1120 昭和11年3月13日 在香港水沢總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

パンアメリカン航空会社による太平洋横断航  
空路の終点を香港とすることで英米間に合意  
成立との中國紙報道について

香 港 3月13日後発  
本 省 3月13日夜着

第二號

三月九日ノ當地支那新聞ハ先般華府ニ於テ英米間ニ大西洋  
航空協定調印セラレタル際汎米會社側ヨリ太平洋横断線ノ  
終點ヲ香港トスルコトニ付要求アリタルカ最近英國政府ハ  
之ヲ容認スルニ決シタル旨報シ更ニ上海及馬尼刺電報トシ  
テ兩地汎米會社出張員等ハ何等斯ル報知ニ接シ居ラサル旨  
報シタルカ十二日ノ當地「モーニング、ポスト」紙ハ民政  
長官ニ質シタル處同長官ハ本問題ノ交渉ハ倫敦ニ於テ行ハ  
レタルモノニシテ未タ何等ノ報道ニモ接シ居ラサル旨語リ

ス、茲ニ於テ「リース、ロス」ハ自分(ラモント)ニ書  
面ヲ寄セ米國政府側ハ本件ニ乘氣ナラサルモ英米間協調  
ノ必要アリト思考スルニ就テハ自分(ラモント)自身又  
ハ自分ノ代表者ニ於テ支那ニ出張スル運ニハ行カサルヘ  
キヤト尋不越シタルヲ以テ自分ハ早速電話ニテ國務省ノ  
幹部ニ問合セタル處國務省側ハ大藏省程英國側ニ對シ反  
感ヲ有セス都合ニ依リテ「モーガン」側ヨリ何人カヲ渡  
支セシムルコトニ異存ナシトノ回答アリタルヲ以テ然ラ  
ハ「アンダーソン」ヲ派遣スヘキカトモ考ヘ深井日銀總  
裁ニ問合セタル處同總裁ハ鄭重ニ米國側ヨリ調査員ノ渡  
支乃至渡日スルコトハ一向差支無キコト但シ「リース、  
ロス」ハ相當獨斷的ノ態度ニ出テムトシツアリトノ趣  
旨ノ回答ニ接シ「アンダーソン」派遣ヲ思止マリタリ、  
其後「リース、ロス」ノ行動ヲ見ルニ右派遣ヲ中止シ善  
キコトヲ爲シタリト考ヘ居レリ、自分(ラモント)ハ  
「リース、ロス」ニ對シ豫ネテ支那ニ仕事ヲ爲サムト欲  
セハ必ス日本側ト充分打合セ協同シテ之ヲ爲スニ非スム  
ハ成功ノ見込ナキコトヲ説示シ置キタルニ拘ラス其支那  
ニ於ケル行動ハ自分ノ遺憾トスル所ナリ

何等御参考迄

支、南京、廣東、馬尼刺、英へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1121 昭和11年3月23日 在廣東河相總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

廣東・ハノイ間航空連絡をめぐり国民政府中  
央と西南當局の間に妥協成立について

付記 昭和十一年四月二十七日付、児玉(常雄)満州

航空株式会社副社長作成

「南支航空事情調査報告」

廣東 3月23日後発  
本省 3月23日夜着

第八五號

往電第七一號ニ關シ

二十一日及二十二日ノ當地漢字紙ノ報道ニ依レハ交通部ハ  
廣東ヨリ廣西省經由河内ニ至ル航空路ヲ西南航空公司ニ引  
渡シ廣州灣ヨリ河内ニ至ル線ヲ中國航空公司ニ保留スルコ  
トニシ二十日西南當局及公司側ニ正式ニ回電シ來リ劉沛泉

支、北平、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ香港、河内  
ヘ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
計畫ノ由右御参考迄

南支航空事情調査報告

(付記)

昭和十一年四月二十七日 児玉 常雄

昭和十一年三月二十一日附左記訓令ニ基キ廣東陸軍武官白田  
中佐ノ指導ニ依リ香港、澳門、廣東、南寧(廣西)、柳州  
(廣西)、河内(佛領印度支那)ヲ遍歷シ廣東ニ於テハ第四軍  
團總司令李宗仁氏ト南寧ニ於テハ第四軍團副總司令白崇禧  
氏ト柳州ニ於テハ航空學校副校長鍾紀氏ト會見シ親シク其

ノ意見ヲ徵シ又各地ノ總領事ヲ訪問シ地方の意見ヲ聽取セ

リ此ノ間遺憾トスル所ハ白田武官ノ熱心ナル努力アリシニ

モ拘ラス病氣ノ爲廣東ニ於テ第一集團總司令陳濟棠氏ト會  
見スル能ハサリシト、河内ヨリ歸路北海、海口、廣州灣ニ  
寄港スル定期船ヲ利用シタルモ天候ノ爲メ上陸不可能ニシ  
テ直接視察シ得サリシコトナリ、本旅行間廣東ノ白田中佐  
香港ノ大平大尉南寧ノ岡田大尉柳州ノ佐藤大尉ノ懇切ナル  
指導ヲ賜リシコトヲ深謝ス

本視察中最モ痛感セルハ南支ニ於ケル歐米各國ノ航空權獲  
得工作力着々進捗シ皆ナ之カ實行ニ移リツツアル現況ニテ

我カ南支航空工作ハ一日モ忽カセニスル能ハサルト廣東、  
廣西特ニ廣西政權カ我カ陸軍ニ賴リ軍備ノ充實ヲ完結ゼン

トルノ三點ニ在リ之レ基ヨリ駐在陸軍武官ノ熱心ナル指  
導ニ因ルモノナリトハ雖モ南寧、柳州ニ在ル我カ派遣教官  
ノ獻身的ナル奮勵ニ依リ我カ陸軍ノ支那ニ對スル眞意ヲ如  
實ニ示シタルノ效果ニ基因スルヲ認メサル可カラス

兒玉滿航副社長ノ南支ニ於ケル航空事情調査ニ對

スル希望要件

一一、三、一三 防備課

一、臺北盤谷間航空路開設ニ付香港附近ノ著陸地ハ外交、經  
濟、軍事等ノ諸觀點ヨリ觀テ香港、澳門、廣東ノ三者何  
レヲ適當トスルヤ尙各者ノ利害特徵特ニ其ノ實現性ニ關  
スル詳細ナル觀察及其ノ對策

二、右ニ關シ特ニ著意シテ調查スヘキ事項

1、本目的ノ爲西南航空公司ノ利用案及之カ爲我方トシ  
テ採ルヘキ工作案

2、使用機ニ陸上機ヲ使用スルモノトシテ澳門ノ新規埋  
立利用案及之カ爲我方トシテ採ルヘキ工作案

3、廣東ヲ著陸地トスル案ニ對スル廣東政府ノ意向及今  
後ニ於ケル交涉工作

4、香港ヲ著陸地トスルニ付英國官憲ノ態度及若シ有望  
ナリトセハ本案ニ對スル今後ノ進涉工作

三、西南航空公司ニ關シ右目的ノ外帝國航空勢力ノ南支進出  
ノ目的達成ノ見地ニ基ク該公司ノ利用案

四、西南特ニ廣西ニ對スル飛行機賣込ニ關スル方策  
五、右諸項ノ外南支方面ニ於ケル航空一般事情ニ關シ航空

## 目次

七 中国をめぐる列国との関係

台北盤谷航空路開設ニ關スル判決

指示セラレタル事項ニ關スル判決

指示セラレタル事項ニ關スル説明

第一 香港附近ノ着陸場ノ撰定

## 第二 調査事項

(1) 西南航空公司利用案

(2) 陸上機ヲ利用スルモノトシテ澳門ノ新規埋立地ノ

利用案

(3) 廣東ヲ着陸地トスルニ付英國官憲ノ意向

(4) 香港ヲ着陸地トスルニ付英國官憲ノ態度

第三 西南航空公司ニ關シ右目的ノ外帝國航空勢力ノ南

支進出ノ目的達成ノ見地ニ基ク該公司ノ利用案

第四 西南特ニ廣西ニ對スル飛行機賣込ニ關スル方策

第五 南支方面ニ於ケル航空一般事情ニ關シ航空國策上

参考トナルヘキ事項

第六 第四軍團副總司令白崇禧ニ提示事項

## 指示セラレタル事項ニ關スル説明

## 第一

台北、盤谷間ノ航空路開設ニ付香港附近ノ着陸地ハ外交、

五河内、盤谷間ハ第二次工作トシ外務遞信ヲシテ其ノ衡ニ  
當ラシムルヲ要ス(衝カ)

當ラシムルヲ要ス

第六 第四軍團副總司令白崇禧ニ提示事項

第六

經濟、軍事等ノ諸觀點ヨリ觀テ香港、澳門、廣東ノ三者何レヲ適當トスルヤ尙各者ノ利害特徵特ニ其實現性ニ關スル詳細ナル觀察及其ノ對策

總テノ點ニ於テ廣東ニ撰定スルヲ要ス

判決

香港ヲ撰フヘキヤ廣東ヲ撰フヘキヤ

四月十八日 於香港

台灣トノ接續點トシテ香港ヲ撰フヘキヤ廣東ヲ撰フヘキヤ

ハ香港、廣東ノ局地的考察ニ依リ決定スヘキ問題ニ非スシテ日本ノ航空政策ノ重點ヲ支那ニ置クヘキヤ將又歐亞連絡ニ置クヘキヤニ依リ決定ス若シ之ノ重點ヲ支那ニ置クモノトセハ日本ハ廣東、廣西政權ト握手シ西南航空公司ト共同經營ヲ爲シ更ニ歐亞航空公司ト提携シ以テ米國ト對抗シテ支那全土ノ航空ノ霸權ヲ掌握セサルヘカラス之カ爲聯絡地點ヲ廣東ト撰定スヘキ勿論ナリ又若シ歐亞トノ聯絡ヲ主体トスルナラハ英國ト提携シ佛國ト妥協シ「インペリアルエーヤウエー」及「アエロ、フランセー」ト同一航路ヲ辿リ倫敦迄航空路ヲ延長スルヲ要スヘク此ノ際英佛兩國機ノ東京

期スルヲ要ス

台北盤谷航空路開設ニ關スル判決

一、航空路ハ台北、廣東、南寧、河内、「ビアンシヤン」及盤谷トスルヲ要ス

二、台北、河内間ノ航空ハ西南航空公司ヲ技術的、財政的ニ援助シ西南航空公司ノ名ヲ以テ之ヲ實施スルヲ要ス

三、興中公司ヲシテ廣東、廣西ニ航空機ノ賣込ヲ實施セシメ其ノ條件トシテ第二項ノ實現ヲ期スルヲ要ス

四、西南航空公司利用工作ハ第三項ノ實現ニ件ヒ廣東武官ヲ主体制トシ之ニ専門家ヲシテ援助セシメ軍部ノ手ニ於テ之ヲ爲スヲ要ス

五、河内、盤谷間ハ第二次工作トシ外務遞信ヲシテ其ノ衡ニ當ラシムルヲ要ス(衝カ)

六、西南航空公司ニ關シ右目的ノ外帝國航空勢力ノ南支進出ノ目的達成ノ見地ニ基ク該公司ノ利用案

七、當ラシムルヲ要ス

八、總テノ點ニ於テ廣東ニ撰定スルヲ要ス

九、當ラシムルヲ要ス

十、當ラシムルヲ要ス

十一、當ラシムルヲ要ス

十二、當ラシムルヲ要ス

十三、當ラシムルヲ要ス

十四、當ラシムルヲ要ス

十五、當ラシムルヲ要ス

十六、當ラシムルヲ要ス

十七、當ラシムルヲ要ス

十八、當ラシムルヲ要ス

十九、當ラシムルヲ要ス

二十、當ラシムルヲ要ス

廿一、當ラシムルヲ要ス

廿二、當ラシムルヲ要ス

廿三、當ラシムルヲ要ス

廿四、當ラシムルヲ要ス

廿五、當ラシムルヲ要ス

廿六、當ラシムルヲ要ス

廿七、當ラシムルヲ要ス

廿八、當ラシムルヲ要ス

廿九、當ラシムルヲ要ス

三十、當ラシムルヲ要ス

卅一、當ラシムルヲ要ス

卅二、當ラシムルヲ要ス

卅三、當ラシムルヲ要ス

卅四、當ラシムルヲ要ス

河内、盤谷線開始ノ交渉ハ全然外交交渉トシ外務遞信ニ一任シ軍部トシテハ容喙セサルヲ可トス。<sup>(中略)</sup>

## 第二

右ニ關シ特ニ著意シテ調査スヘキ事項

(1) 本目的ノ爲西南航空公司ノ利用案及之カ爲我方トシテ採

ルヘキ工作案

## 判決

廣東、廣西ニ武器特ニ軍用航空機ヲ讓渡スル爲メノ條件トシ西南航空公司ニ器材、施設並技術的、財政的援助ヲ爲シ西南航空公司ノ名ヲ以テ臺灣、河内間ノ定期航空ヲ實施セシメ我國ハ其ノ實權ヲ取ルヲ要ス

## 説明

四月二十一日 於香港

南京政府ノ隱然敵國ノ形ヲ爲シアル廣東、廣西政權ニ我カ勢力ヲ扶殖スルコトハ軍事上並政策上緊要ナルハ多言ヲ要セサルモ南支ニ於ケル吞吐港トシ香港ヲ有シ多年ノ經營ニ財政上ノ霸權ヲ掌握スル英國ノ勢力ヲ驅逐シテ我カ勢力ノ進展ヲ期セムコトハ頗ル難事ナリ然レ共胡漢民ヲ主腦トシ

盤ヲ構成スルヲ第一手段トスルヲ要ス  
之ノ問題解決スレハ西南航空公司ノ利用ノ如キハ容易ナルモノト信ス<sup>(中略)</sup>

(3) 廣東ヲ着陸地トスル案ニ對スル廣東政府ノ意向及今後ニ於ケル交渉工作

## 判決

廣東政府ハ我カ國カ航空機ヲ讓渡スル際ノ條件トシテ交渉セハ應諾スヘキ可能性ヲ有ス右工作ハ廣東武官ヲ主体トシ専門家ヲシテ援助セシムルヲ要ス萬一西南政務委員會カ南京政府ノ妨害ヲ受ケ實現困難ナル虞アルトキハ中央ノ接渉ニヨリ局面ヲ打開スルヲ要ス

## 説明

陳濟棠、李宗仁、白崇禧ノ堅キ提携ニ依リ廣東、廣西ハ武力ヲ蓄積シ内政ヲ改革シ以テ南京政府ニ當ラムトスル廣東、廣西主腦部ノ一致協力ハ終始一貫シ而モ理論ヲ超越シ一步ニヨリ廣東、廣西ハ日本ヨリ武器ノ供給ヲ受ケ特ニ廣西ニハ教官ヲ派遣セラレ各教官ノ熱心ナル指導ニ依リ其ノ効果頗ル見ルヘキモノアリタル爲一途日本軍部ヲ信賴シアリ一方英、米ハ目下兵器賣込特ニ航空機材ノ賣込ヲ計畫シ其ノ支拂條件等モ廣東、廣西等ノ要求ニ概ね合致シアル所ナルモ英、米ハ南京政府ノ諒解ナシニ新式武器ヲ廣東、廣西ニ提供スルトキハ南京政府トノ關係惡化ヲ恐レ南京政府ニ之カ諒解ヲ求メアルモ南京政府ハ廣東、廣西政權ノ新式武器ノ整備ヲ喜ハス未タ許可ヲ與ヘサル情況ナリ即チ現在南京政府ノ拘束ヲ受クル事ナク新式武器ノ供給ヲ受ケ得ルモノハ我國ノミナルヲ以テ我カ國ヨリ兵器ノ讓渡ヲ受クルコトヲ熱望シアルモ其ノ支拂條件ニ於テ難色アリ之カ爲特種ノ方法即チ興中公司ヲ利用スル事ニ由テ之ノ條件ヲ緩和シ以テ先ツ武器ノ供給ト之レニ伴フ人員ノ派遣ヨリ起シ其ノ結果財政方面ニモ喰ヒ込み以テ廣東、廣西ニ於ケル我國ノ地

廣東、廣西兩政權共國內軍備充實ノ爲メ日本兵器特ニ航空機ノ讓渡ヲ極度ニ希望シアルモ我方ノ要求スル支拂條件ノ爲メ困難ヲ感シ之カ緩和ヲ熱望シアルヲ以テ之ノ條件ヲ緩和シ兵器ノ供給ヲ承認セハ我方ヨリノ條件ハ廣東武官ノ盡力ニ依リ相當範圍迄受諾スルハ明瞭ナリ加之廣東、廣西共財政窮乏シアル今日民間機ノ軍用機轉用並ニ平時ニ於ケル

之等ノ交渉工作ハ兵器供給ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ

廣東武官ニ一任シ之カ補佐トシテ専門家ヲ派遣シ援助セシ

マルヲ要ス

(4)香港ヲ着陸地トスルニ付英國官憲ノ態度及若シ有望ナリ

トセハ本案ニ對スル今後ノ進涉工作<sup>(交渉)</sup>

判 決

英國官憲ノ態度ハ不明ナルモ恐ラクハ許可セサルヘク許可スルトスルモ香港ヨリ東京迄ノ乘入ヲ要求スルナラム若シ交渉ヲ開始スルトセハ直チニ香港日本領事ヲシテ正式ニ英國官憲ノ態度ヲ「サウンド」セシムルヲ要ス

四月二十一日 於香港

香港英國官憲ノ我國ニ對スル警戒ハ頗ル嚴重ニシテ從來旅行者モ滯在者モ旅券ノ必要ナカリシニモ拘ラス滯在者ハ勿論警察ニ屆出ヲ香港ヲ出入スル都度申告ヲ要シ旅行者ト雖モ二十四時間以上滯在ノ場合ニハ寫眞ヲ具ヘ警察ニ届出ヲ要スルカ如キ有様ニシテ本問題ニ關シ英國官憲ノ意向ヲ聽取スルコト不可能ナリ然レトモ概略ノ意向ハ香港水澤總領事ノ意向ヲ参考トセラレ度キモ現ニ香港ニハ背面防禦等ノ軍事施設ヲナシ又空軍ヲ擴張シ「紛嶺」ニ軍用飛行場ヲ増設セムトシアルニ鑑ミ軍事的見地ヨリシテ恐ラクハ許可セ

ヲ先ニスヘキモノト信ス

二、日本カ真ニ盤谷飛行ヲ實施セムトセハ先ツ親善飛行等ニ名ヲ籍<sup>(籍)</sup>リテ數回ノ飛行ヲ試ミ續テ試驗飛行ヲ爲シ然ル後實行ニ移ル可キモノナリト思フインペリアル、エーヤウ

エーノ如キモ昨年來十數回ニ涉リ各種ノ試驗飛行ヲ爲シタル後實施ニ移リタルナリ

三、英國香港官憲ハ日英相互乗入條件ナレハ許諾スルナラム然シ英國ハ臺灣迄ノ乗入ニテハ満足セス東京迄ノ乗入ヲ希望スルヤモ知レス日本ニ於テ之ヲ許容スルノ用意アラハ直チニ英政府ニ申込ヲ可トス

サルヘン

香港水澤總領事トノ會見

四月十八日 於香港

一、日本政府特ニ外務省カ盤谷飛行ヲ出先官憲ニ對シ秘密ノ嚴守ヲ要求シ且ツ新聞記事等ノ掲載ヲモ禁止シタルニモ拘ラス日本新聞紙ハ堂々ト發表シ爲メニ英人ハ勿論支那人間ニモ既ニ之レヲ知レリカカル事ハ宣傳ヲ後ニシ實行ノ談話ノ要項次ノ如シ

英政府ノ主義ハ相互對等條件ヲ絕對的トシアリ汎米エーヤウエーノ香港乗入レニ不成功ナリシモ之レニ歸因スト思ハル

昨年五月新嘉坡ヨリインペリアル、エーヤウエーノ者一名香港ニ來リ密ニ廣東ニ行キ新嘉坡、香港間ノ定期航空ノ航空路トシテ海南島着陸ヲ希望シ其ノ條件トシテ西南航空公司ノ香港乗入ヲ提唱シタルモ廣東ニ於テ容レラレス其ノ航路ノ新嘉坡、海南島、香港ヲ放棄シ新嘉坡、北ボルネオ、香港ヲ水上機ヲ以テ接續セムト計畫セシモ彼南、香港線ノ可能ナルヲ發見シ現在ノ航空路ヲ開始セリ

四、香港市民ノ輿論ハ新聞ヲ通シテ見ルニ香港カ現在ノ如ク

發展セルハ自由港ナルカ爲メニシテ昨今ハ通過荷物ノ増加ニ伴ヒ貿易不振ノ情況ニアリ而テ香港ノ如ク極東ノ一嶋嶼ヲ軍事的ニ防備スルヲ主眼トシ之レヲ航空ニ開放セサルハ無意味ナリ香港ヲ航空ニ開放シ東洋ニ於ケル航空

路ノ中心地トスルコソ賢明ナル方策ナリトノ論調盛ナリ

故ニ早晚航空ニ對シ解放スルノ氣運ニアルモノト思ハル五、中國航空公司河内乘入ニ關シ陳濟棠カ之ヲ拒否シタル結果西南航空公司ハ南京政府ト交渉シ廣東、河内間ノ航空

一、廣東、香港附近ヲ中心トスル航空権ノ獲得問題ハ南支ニ右諸項ノ外南支方面ニ於ケル航空一般事情ニ關シ航空國策上參考トナルヘキ事項

判 決

一、廣東、香港附近ヲ中心トスル航空権ノ獲得問題ハ南支ニ於ケル列強ノ猛烈ナル競爭裡ニ展開セラレアリ策ノ如何ヲ問ハス今ニシテ一石ヲ投スルニ非サレハ帝國ハ永久其ノ落伍者タルノ悲運ニ到達スヘシ

二、本問題ノ如キ國際問題ハ絶対祕密裡ニ處理セサルヘカラ

ス然カラサレハ第三國ノ猛烈ナル阻止ニ遭遇スヘキコト

火ヲ睹ルヨリ瞭カニシテ帝國政府カ盤谷航空路開設問題

ヲ堂々日本新聞紙上ニ發表スルカ如キハ最モ慎マサル可

カラサル所ニシテ從來ノ發表カ今後ノ交渉工作ニ多大ナ

ル妨害ヲ爲ストヨ豫期セサルヘカラス

三、佛領印度支那ヲ日本航空機ヲ以テ通過スルコトハ困難ナ

リ而シテ之カ交渉ハ佛蘭西本國ニ於テスルヲ可トス

四、航空路ハ台北、廣東、南寧、河内「ビヤンシヤン」及盤

谷トシ特ニ廣東、廣西内ハ「スーパー」級ヲ以テ即刻開始スルヲ要ス

五、廣東、廣西ニ兵器ヲ賣込ムト共ニ絕エス日本將校ヲ派遣シ各級幹部ヲ衷心ヨリ親曰トナル如ク教導スルヲ要ス

南支那方面ニ於ケル航空一般事情

歐米列強カ支那ヲ中心トシ航空勢力扶植ニ全力ヲ傾注シアルハ周知ノ事實ニシテ昭和六年ヨリ具體化シ中國航空公司ノ名ヲ以テスル米國、歐亞航空公司ノ名ヲ以テスル獨逸、軍事航空ノ名ヲ以テスル伊國等既ニ重要ナル路線ハ盡ク其ノ勢力範圍ニ置カレアリ然ルニ幸ニシテ南支那ニ於テハ廣

英國モ同様香港ヲ起點トシ香港、彼南線ヲ三月二十四日ヨリ開始セリ即チ我國ノ中支、南支ニ於ケル航空政策ハ悉ク

歐米列強ニ先チラレ餘斯所ナシ唯殘ルモノハ西南航空公司ノ廣東、龍州線ノミ此ノ線ト雖モ廣東ニハ既ニ上海ヨリ南海岸線ニ沿ヒ南下シアル中國航空ノ路線アリ又南京ヨリ南下セル歐亞航空公司ノ路線アリ加フルニ財政豐カナラサル廣東政府ノ事ナレハ何時之ヲ手離スヤモ計リ知ルヘカラス今ニシテ此ノ西南航空公司ヲ我方ノ勢力範圍下ニ置クニ非サレハ全支ノ航空權ハ舉ケテ歐米列強ノ手ニ委セサルヘカラス

カラス

英國モ同様香港ヲ起點トシ香港、彼南線ヲ三月二十四日ヨリ開始セリ即チ我國ノ中支、南支ニ於ケル航空政策ハ悉ク

歐米列強ニ先チラレ餘斯所ナシ唯殘ルモノハ西南航空公司ノ廣東、龍州線ノミ此ノ線ト雖モ廣東ニハ既ニ上海ヨリ南下

セル歐亞航空公司ノ路線アリ加フルニ財政豐カナラサル廣東政府ノ事ナレハ何時之ヲ手離スヤモ計リ知ルヘカラス今ニシテ此ノ西南航空公司ヲ我方ノ勢力範圍下ニ置クニ非サ

レハ全支ノ航空權ハ舉ケテ歐米列強ノ手ニ委セサルヘカラス

東、廣西兩政府ノ南京政府トノ對向と純然タル支那資力ヲ以テ廣東以西ノ航空權ノ維持ニ努メツツアリタリ然ルニ最近米國ノ魔手ハ廣東、廣西ニ延ヒ「アエロ、フランセー」航空路トノ接續ヲ名トシ廣東、河内ノ定期航空ヲ強行的ニ實施セントシテ廣東政府ノ阻止ニ會ヒタルモ遂ニ廣東河内間ノ定期航空ハ西南航空公司ノ手ニ依リ實施スル如ク南京政府ノ諒解ヲ得タルカ如シ之ノ問題ニ付キ米國カ果シテ此儘手ヲ引クヤ否ヤ頗ル疑ハシキ處ニシテ他日何等カノ形式ヲ以テ其ノ魔手ヲ西南航空公司ニ延スモノト想像セサルヘカラス

サルノ悲運ニ到達スヘキハ火ヲ睹ルヨリモ瞭ナリ幸ヒ廣東駐在武官ノ努力ニ依リ廣西政府ニ飛行機ノ賣込成成功シ教官

派遣中ナリ又廣東政府ニ於テモ優秀ナル輕爆竜ニ戰鬪機ヲ

日本ヨリ得ムコトヲ希望シアリ此ノ機會ヲ逸シテハ再ヒ好機ハ來ラス

何等ノ誠意ヲ示サス唯單ニ利權ノミヲ獲得セムトスルカ如キハ現在ノ南支特ニ火ノ如キ性格ヲ有スル廣東、廣西兩政府ニ對スルノ途ニアラス日本カ該政府ニ武器ノ供給ヲ爲スハ單ニ日本ニ於ケル過剩武器ノ販路トシテニ非スシテ內面的積極的ニ之ヲ援助シ他日ノ用ニ供セムカ爲ナルヘシ果シテ然ラハ日本政府ハ新式器材ヲ供給スルト共ニ多數ノ取扱者ヲ派遣シ日本ノ誠意ヲ示スト共ニ衷心ヨリノ提携ヲ爲スコト絶對的必要ナリ  
(以下省)

ニューヨーク 6月19日後発  
本 省 6月20日前着

第七四號

往電第六五號(編註)ニ關シ

更ニ「ラ」ヲシテ往電第三五六號公債低利借替ノ件ヲ華府輸出入銀行總裁 (President) Peterson ニ質サシメタル處同人モ之ヲ承認セル趣ナリ依テ本件ハ略確實ナリト推セラル  
因ニ「ラ」ニ探知セラレタルコトヲ知ルヤ「ピ」ハ之カ公表ヲ爲サントセル趣ニ付不取敢「ラ」ヲシテ追テ要求スル迄見合方先方ニ申入レ置カシメタリ  
就テハ之カ發表ノ可否及時機等御電示請フ  
尙銀行側ニ於テ内密ニシ居ル理由ハ銀協定ト同様選舉期ヲ控ヘ反對派ニ逆用セラルルコトヲ惧ルル内政的理由ニモ出ツルモノノ如シ

米ヘ暗送シ英ヘ轉電セリ

1122 昭和11年6月19日 在ニューヨーク井上總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

米國輸出入銀行が中國に対し公債の低利借換  
えを承認したとの情報について

1123 昭和11年6月24日 在米國斎藤大使より 有田外務大臣宛(電報)

棉麥借款を含む対中債権の移管継承を米国輸

出入銀行公表について

ワシントン 6月24日後発

本省 6月25日前着

第一二六六號

當地輸出入銀行ハ棉麥借款及 Grain Stabilization Corporation  
ノ對支債権ヲ繼承スルコトナリタル旨「十日公表セル處  
右ニ依レハ R、F、C ノ分ハ總額一千七百十萬五千三百八  
十五弗ノ内未拂殘金一千三百五十三萬七千三百八十七弗ニ  
シテ G、S、C ノ分ハ(一九三三年水害救濟ノ爲ノ小麦借  
款)總額九百二十萬餘ノ内未拂殘金三百七萬餘ナルカ右  
二口ハ同銀行ノ帳簿ニ一括セラレ年四回拂ニテ六箇年間ニ  
完済セラレ得ヘク尙擔保ハ從前通リナル趣ナリ  
紐育ニ郵送セリ

1124 昭和11年7月1日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

1124 昭和11年7月1日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

キタリ

南京、北平、天津へ轉電セリ

1125 昭和11年7月9日 在廣東河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)

広東・ハノイ間の定期航空連絡開始について

広東 7月9日後発  
本省 7月9日夜着

第二五九號  
往電第一九九號ニ關シ

西南航空公司ノ中佛航空路ハ愈七月十日ヨリ毎週一回ノ定

期往復ヲ開始スルコトトナリ毎金曜日午前八時廣東發梧州、  
南寧、龍州經由同日午後二時半河内着土曜日午前八時半河  
内發前記三地方經由午後三時廣東着ノ筈ニテ兩地間旅客運  
賃ハ國幣二百七十元ナリ尙當地郵便局ハ八日附ヲ以テ十日  
ヨリ廣東河内間並ニ支那、歐羅巴、南亞細亞ノ各地間(河  
内ニテ馬耳塞航路ニ聯絡)ノ航空郵便取扱開始ノ旨告示セ  
リ委細郵報

支、在支各總領事へ轉電シ香港、暹、河内へ暗送セリ

新任仏國大使に對して華北諸問題に關するわ  
が方見解説明について

上海 7月1日後発

本省 7月1日後着

第五〇八號

二十九日着滬セル新任佛國大使「ナジアール」三十日本使  
ヲ來訪シ近ク南京ニテ國書捧呈ノ上ハ一應北上シ夏ヲ過コ  
ス筈ナルカ其ノ中上海官邸及事務所ヲ設ケ隨時來滬スル要  
アリト考ヘ居ル旨ヲ述ヘ又北支ノ事態ハ改善ノ見込アリト  
考フルヤ日本ハ北支ニ獨立地域ヲ作ル考ニアラスヤ北支ノ  
海關ニ付種々ノ問題ヲ生シ居ル模様ナルカ如何ト質問セル  
ニ付本使ヨリ然ルヘク説明ヲ與ヘ置キタリ其ノ中本使ヨリ  
日本ノ希望スル所ハ主トシテ北支經濟開發ニシテ一々南京  
ノ指圖ヲ仰カスシテ之カ實行セラルルコトヲ希望スルモノ  
ナリト述ヘタルニ對シ「ナ」ハ例ヘハ鐵道建設ニ付テモ南  
京ノ命ニ依ラスシテ實行セラルルコトヲ希望セラルル次第  
ナリヤト質問セルニ付本使ハ冀察ノ行政地域内ノ地方的鐵  
道ニ付テハ南京ヨリ北支政權ニ權限ヲ委任シ日本ノ技術的  
援助ニ依リ實行セラルルコトヲ希望スルモノナリト答ヘ置

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1126 昭和11年7月23日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中國空軍用ガソリンの一 手納入を米国スタン  
ダード社が落札したとの情報について

南京 7月23日後発  
本省 7月23日夜着

第五二四號  
往電第五一五號ニ關シ

二十二日「マクダニエル」ノ本官ニ内話スル所ニ依レハ蔣  
介石ハ從來「スタンダード」、「テキサス」、A、P、C三  
社ヨリ購入中ノ空軍用飛行機油「ガソリン」等カ高價ナリ  
シ爲過般南昌ニテ入札ニ附シ爾後「ス」社ヲシテ一手ニ納  
入セシムルコトトシ之カ代價トシテハ桐油ヲ以テ現物支拂  
ヲ爲シ「ス」社ハ「ニュージャーシー」ノ武器製造會社タ  
ル「デュ、ポン」ト協定シテ右「ス」社ノ受取ルヘキ桐油  
ヲ同社ヲシテ購入セシムルコトナレル趣ナルカ本件工作

ニハ過般渡米セル陳光甫専ラ之ニ當レル由  
冒頭往電ノ次第ハアルモ右聞込ノ儘不取敢  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、天津、青島、漢口、廣東へ轉電セリ

~~~~~

1127 昭和11年7月26日 在漢口三浦總領事より 有田外務大臣宛(電報)

仏國銀行團と中國建設銀公司との間に成渝鐵道(成都・重慶間)建設借款が調印された旨仏

國領事内話について

漢口 7月26日前發 本省 7月26日夜着

第一八三號

重慶發本官宛電報

第二七號

大臣へ轉電アリタシ

第二九號

二十五日佛國領事「メダー」ノ本官ニ内話スル所ニ依レハ

成渝鐵道ノ借款契約ハ數日前中法商工銀行、中法銀行、巴

トニ關シ香港政府ト交渉中ニシテ當局談ニ依レハ右交渉ハ近ク成立ノ見込ナリト八日夕刊「テレグラフ」紙ニ報道セラル

尙同新聞ハ中國航空公司モ廳テ香港ヲ終點トスルニ至ルヘク目下駐支英國大使ト南京政府トノ間ニ交渉進行中ナル旨傳ヘ居レリ  
支、南京、廣東へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1129 昭和11年10月23日 在香港水沢總領事より 有田外務大臣宛(電報)

上海・廣東間航空路線の香港連絡に関する中國航空公司と香港政府との交渉妥結について

香 港 10月23日後發 本省 10月23日夜着

第一三九號

往電第一三號後段ニ關シ

中國航空公司總理戴恩基ハ數日前汎米航空會社極東支配人「ピックスピイ」ト共ニ來香シ同公司上海、廣東線ノ香港

里「ネザーランド」銀行ト中國建設銀公司トノ間ニ調印ヲ了セリ借款額ハ二千六百萬法ニシテ大部分材料ヲ以テ供給シ現金ハ極メテ僅少ナリ條件ハ無擔保ニシテ、中國、交通、中央及邊業四大銀行ノ信用保證ノ外体裁上技師ヲ顧問トシテ同鐵道ニ傭聘スル程度ニシテ極メテ寬容ノモノナリト言フ尙右佛國銀行側ハ「ユロピアン、シンヂケート」ヲシテ材料ノ供給ヲ引受ケシムル趣ナリ

(漢口ヨリ)支、北平、南京へ轉電アリタシ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1128 昭和11年8月9日 在香港水沢總領事より 有田外務大臣宛(電報)

太平洋横断航空路の終点在香港とすることに

つき香港政府とパンアメリカン航空会社との

間で近く合意成立との報道について

香港 8月9日後發 本省 8月9日夜着

第一一三號

汎米航空會社ハ香港ヲ以テ其ノ極東ニ於ケル終點ト爲スコ

連絡ニ關シ香港政府ト交渉中ナリシ處右交渉ハ妥結ヲ遂ケタル趣ナリ尙戴ハ二十一日廣東發上海向ノ途中香港ニ立寄レル飛行機廣東ニ便乘北歸セリ

支、南京へ轉電シ廣東、馬尼刺へ郵送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

1130 昭和11年11月2日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

中国航空公司の香港乗入れが英國政府によつて認可されたとの新聞発表について

付 記 昭和11年10月1日發在香港水沢總領事より

香港・シドニー路線の開設により香港・豪州・米大陸連絡航空路完成について

上 海 11月2日後發 本省 11月2日夜着

第八八三號

香港發閣下宛電報第一四二號ニ關シ

發表シタル趣ナリ

同公司香港着陸ノ件ハ既ニ英國政府ノ認可ヲ得愈十一月五日ヨリ開港毎週三回宛往復スルコトトナリタリ本件飛行開始ニ依リ英國トハ「インペリアル、エア、ウエーブ」ト米國トハ「パンアメリカン、エア、ウエーブ」ト聯絡シ英支米支間ノ航空聯絡成就スヘク尙右期日ハ英國トハ五日開航ト同時ニ米國トハ先般來支セル「ウイトニー」氏歸來後決定公表セラルヘシ云々

南京、北平、廣東、香港ニ轉電シ馬尼刺へ暗送シ上海へ轉報セリ

(付記)

香港 昭和12年10月1日後発  
本省 昭和12年10月1日後着

第四〇六號

三十日當地新聞ニ依レハ「インペリアル・エアーウエイズ」ハ本年末香港「シドニー」線(彼南、「ダーウイン」)經由所要日數七日)ヲ開設シ之ヲ十一月開始セラルヘシ同社及汎米航空社共同經營ニ成ル桑港「シドニー」線(「ホノルル」

經由)ト聯絡スヘク香港、濠洲及米大陸ヲ連ヌル航空路ヲ完成スヘク又和蘭航空會社ニ於テモ十月月中ニ「ダーウイン」馬尼刺線(「バタビヤ」經由所要日數一日)ヲ開通セシムヘキ豫定ナリト報シ居レリ  
馬尼刺、「バタビヤ」、「シドニー」、桑港へ轉電シ米、英ヘ暗送セリ

1131 昭和11年12月1日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日伊防共協定が近く調印され伊国が滿州国を承認するとの中国紙の憶測記事について

南京 12月1日後発  
本省 12月1日後着

第九八五號

前日來ノ各紙ハ日伊協定モ近ク調印セラルヘシトノ記事ヲ大文字ニテ掲載シ居レルカ本一日ノ新京日報ハ伊國將ニ偽滿ヲ承認セントストノ論說ヲ掲ケ日伊協定ニ付テハ各國共尙之ヲ否定シ居ルモ伊國カ近ク滿洲國ニ總領事ヲ任命セントルハ事實ナル旨伊側要人カ語リタルニ徵セハ近ク實現

ヲ見ルコト疑ナカルヘキ力要旨ハ「アビシニア」、「滿洲國」ノ地位ノ交換的承認ニアルヤ疑ナシ伊「ア」戦争ノ時日本ハ「ア」ニ同情シタルニアラスヤ満洲國否承認決議案通過

ノ節ハ伊代表ハ有力ナル聲援ヲ與ヘタルニアラスヤ夫レヲ爾來幾許モ經タサル今日御互ニケロット忘レタルカ如ク斯

ノ如キ協定ヲ結フニ至ル實ニ國際道義低下ノ一證左ト言フヘシ

殊ニ伊カ聯盟ノ一員ニテアリ乍ラ支伊ノ通商並ニ友誼關係

ヲ犠牲ニシテ迄東亞侵略者ヲ援助スルノ舉ニ出テタルハ支那トシテハ返ス返スモ遺憾ナリ乍併事茲ニ至ル以上支那ハ

國聯ニ對シ條約ノ不可侵性維持ヲ請求スルト共ニ世界ニ對シテ此ノ種「私的賣買」ノ否定ヲ聲明シ伊ニ對シテハ嚴重

抗議スルト共ニ有效ナル對策ヲ執ルノ外ナシト論シ居レリ尙昨三十日伊大使ハ張群ノ本件質問ニ對シ本國ニ請訓ノ上回答スヘキ旨答ヘタル趣ナリ御参考迄

支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

~~~~~

七 中国をめぐる列国との関係  
1132 昭和11年12月3日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

防共問題や綏遠問題における日本の外交姿勢  
を在中国仏國大使が強く非難について

南京 12月3日後発  
本省 12月3日後着

第九九二號

二日來寧セル佛國大使ハ本官ニ對シ日支交渉ニモ關聯アル三個ノ疑問點ナリトテ興奮シテ左ノ通り述ヘ居タルカ自然此ノ種意嚮ハ張群ニモ傳ハルヘキニ付御參考迄電報ス

一、日獨協定ハ防共ト言フモ元來反資本主義ノ風潮ハ世界的ニシテ實ハ獨モ伊モ之ヲ實行シ居ル矢先ニモアリ「コミュニケ」ニ反對スト言フ「イデオロギー」上ノ體裁ハ寧口滑稽ニシテ十八世紀前半ノ合衆國「デモクラシー」

カ他國ニ排斥サレ乍ラ今ヤ却テ最モ保守的ナルモノニ化シタル史實ヲ知ラサルモノナレハ寧口獨逸カ國防自主權ノ確立即チ軍備再建ニ出發セントシ日本ヲ利用シタルモノ日獨協定ニアラスヤ

三、然ラハ寧口日獨伊等ハ世界ノ現状ヲ修正スヘキ共同戰線ヲ張ラントスト率直ニ表明スルコト可ナルヘク從ツテ日支間ニ目下交渉中ナリト言フ共同防共モ支那等ハ歴史的

ニ見ルモ容易ニ赤化セラルヘキ國ニアラサレハ日本ハ結

局防共ヲ表看板トシ對露防衛戰ヲ支那ニ強要スルモノニアラスヤ

ミ從テ綏遠問題等モ今少シク日本カ正々堂々ト出テ支那ノ主權ヲ無視スルニハアラサルモ自衛上已ムナク對露防衛

ノ素地ヲ作ランスト眞向ヨリ出テハ如何而モ綏遠問題ノアル際尙支那ト交渉ヲ續ケ行クカ如キハ解シ難シ斯クテハ日本ハ支那ニ唯一ノ逃途即チ露トノ提携ニ追詰メツツアリテ結局世界三分セントスルモノニアラスヤ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ  
支、北京、在支各總領事へ轉電セリ

1133 昭和11年12月8日 在米國斎藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

綏遠問題や青島紡績罷業事件などに關する米  
國新聞論調が中國に同情的な傾向に鑑み報道  
対策注意意見具申

ワシントン 12月8日後発  
本 省 12月9日後着

第四五六號

先週來ノ中華民國方面ヨリノ通信ハ綏遠問題、青島問題及南京交渉ヲ中心トシ種々ノ報道ヲ爲シ居ル處是等ハ何レモ支那側ヨリ出テタル材料ヲ元トセルカ如ク我方ヨリ見テ面白カラサル點鮮カラス

例へハ綏遠ニ付テハ如何ニモ日本側カ同地方占領ノ野心ヲ以テ蒙古兵ヲ使嗾シ進撃セシメタルモ支那軍ノ爲逆襲ニ遭ヒ一溜リモナク敗走シ察哈爾ニ追込マレタルカ如ク傳ヘ(「ヘラルド・トリビュン」ノ「ヴィ・キーン」、「エー・ピー」、「ユー・ピー」等青島ニ關シテハ陸戰隊カ工人罷業ニ乗シ上陸シ工場ノミナラス市黨部ヲ襲ヒ書類ヲ押收シ有力支那人ヲ逮捕セリト爲スモ青島發本使宛電報第一號ノ如キ我方ノ協調的態度ニ付テハ何等傳フル所ナシ(「ヘラルド・トリビュン」「イー・キーン」、「ユー・ピー」等)而モ「ヘラルド・トリビュン」「ブルックリン・イーグル」ノ如キハ恰モ日本カ山東占領ヲ始メタルヤノ見出ヲ附シテ之ヲ掲載セリ又南京交渉ニ付テハ張群ハ日本大使ヲ招致シ青島問題ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出シ且綏遠及青島問題解決セサル限り日支交渉ヲ續行セスト言明シ大使ハ空シク歸滬セリト

報セルカ(「スタイル」、「エー・ピー」、「タイムス」特電等)  
全体ノ調子ハ著シク支那ニ同情的ナリ是等通信ノ論旨(但

シ「アベンド」ノ文ハ其ノ内ニテ比較的良好「バイアス」  
東京通信亦然リ)及各新聞ノ社説(華府「スター」其ノ他及

「コメント」等ハ何レモ當國民衆ニ對シ今日迄隱忍ヲ重ネ  
來レル支那モ青島問題ニ依リ遂ニ勘忍袋ノ緒ヲ切り決然立

チテ北方綏遠ニ於テハ關東軍ノ後援アル蒙古兵ヲ追ヒ散ラ  
シ青島問題ニ對シテハ從來ト逆ニ日本ニ抗議及要求條件ヲ  
提出シ更ニ南京ニ於テハ交渉ヲ拒絶シ日本大使ヲ追返ス等  
愈實力ヲ以テ日本ニ抵抗セント決心ヲ固メタルヤノ印象ヲ

與ヘツツアルモノノ如ク及現ニ當地方「ハイスクール」學生ノ懸賞論文ニ當選セルモノノ内ニモ世人ハ氣付カサルカ  
先週中ノ最重要ナル出來事ハ日本カ飽迄モ內政三千渉セハ

支那ハ戰爭ヲモ辭セスト宣言セルコトナリト趣旨ノモノスラアリ(紐育「ヘラルド、トリビュン」掲載)素ヨリ當方ニ於テモ輿論ノ指導ニハ充分注意致スヘキモ最重要ナルハ現地ヨリノ通信ナルニ付各地公館ニ於テ此ノ上共通信員ト  
ノ聯絡ヲ密ナラシムルコト然ルヘキヤニ思料セラル以上氣付ノ儘御參考迄

1134 昭和11年12月17日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

敦國資本による成渝鐵道建設借款成立に關する報道について

上 海 12月17日後発  
本 省 12月17日夜着

第一〇三三號(至急)

十七日當地新聞紙ハ昨十六日當地ニ於テ成渝鐵道借款契約調印セラレタル旨報セル處右ニ依レハ成都、重慶間五二三「キロ」ノ鐵道建設ノ爲中國建設銀行(董事長宋子文)ハ襄ニ本年三月行政院ノ特許ヲ以テ組織セラレタル川黔鐵道公司ヲ代表シ。法商工銀行トノ間ニ三千四百五十萬元(十五年間ニ償還鐵道部保證)ノ借款ヲ締結セルモノニテ建設資金總額約五千四百五十萬元ノ中二千萬元ハ川黔鐵道公司(資本金三千萬元ノ中千百萬元ハ中國銀公司殘額ハ鐵道部四川省政府折半出資)ニテ引受ケ他ハ前記ノ如ク佛國側ノ

出資(現金七百萬元ノ外ハ建設材料及重慶迄ノ運賃)ニ依リ  
二箇年半ニ建設完了ノ見込ノ由ナリ

尙本件鐵道ニ付注意スヘキ點ハ  
(一)私營會社カ自由ニ經營スルコト(政府出資ハ民間ニ肩替  
リシ得ル由)

(二)久方振ニテ外國ヨリノ鐵道現金借款カ復活セルコト

(三)建設運輸經營カ全然支那側ノ掌握スル所ナルコト(尤モ  
借款契約ニ基キ佛國人専門家二名ヲ傭聘ス)

等ナリト傳ヘ居レリ不取敢  
商務官、財務官へ轉報シ北平、天津、南京、漢口、重慶へ  
轉電セリ

1135 昭和11年12月17日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)  
成渝鐵道建設借款の成立は事実であり對外宣伝  
の目的で中國側が公表したとの情報について  
上海 12月17日後発  
本省 12月18日前着

第①〇四一號

南京、天津、北平、漢口、重慶へ轉電セリ

1136 昭和12年1月9日 在香港水澤總領事より  
有田外務大臣宛  
米國アジア艦隊の香港・シンガポール親善訪問  
に関する中國紙報道振りについて  
普通公第一八號  
昭和十二年一月九日  
(1月26日接受)

南京、天津、北平、漢口、重慶へ轉電セリ

往電第一〇三三號ニ關シ

本件借款契約ノ締結ハ事實ナル如ク同盟松本ノ「チヤンセラ」ヨリ得タル情報ニ依レハ往電第一〇〇〇號京贛鐵道

問題ト同時ニ南京側ノ承認ヲ取付ケタルモノノ由ナリ而シテ此ノ際之ヲ發表セル理由ニ付テハ支那側ニ於テ時局柄其ノ對外信用ヲ見セヒラカス意圖ニ出テタルモノト認メラル

ノ松本ニ對シ英國側ハ佛國側ニ讓リタル旨語レル由

引續キ調査中ナルモ以上不取敢  
商務官及財務官ニ轉報セリ

尙本件ニ對スル英國側ノ態度ニ付テハ「ケズウイク」ハ過

日松本ニ對シ英國側ハ佛國側ニ讓リタル旨語レル由

ル趣ナリ

1138 昭和12年3月23日 在中國加藤大使館一等書記官より  
佐藤外務大臣宛(電報)  
東アジアの政治情勢に関する前駐日佛國大使  
の内話要領報告  
北平 3月23日後発  
本省 3月24日前着

在香港  
總領事 水澤 孝策(印)

上海 1月13日後発  
本省 1月13日夜着  
第②三號

米國亞細亞艦隊ノ香港新嘉坡訪問ニ關スル件  
一月六日ノ當地漢字紙ハ米國亞細亞艦隊司令長官「ヤーネル」提督カ最近ノ新嘉坡訪問ニ當リ同地新聞記者ニ對シテ今後同艦隊ハ從來ヨリ頻繁ニ香港、新嘉坡兩地ヲ訪問スルコトトナルベク右ハ英米兩國親善ノ表徵ナリト語リタル旨報道シ右司令長官ノ談話ハ新嘉坡軍港ノ完成有事ノ際ニ於ケル英國海軍ノ地中海移動並某國ノ野心ニ鑑ミ單ナル儀禮上ノ親善以上ニ重大ナル政治的意義ヲ有スヘシト記述セリ

右何等御参考迄ニ報告ス  
報道シ右司令長官ノ談話ハ新嘉坡軍港ノ完成有事ノ際ニ於ケル英國海軍ノ地中海移動並某國ノ野心ニ鑑ミ單ナル儀禮上ノ親善以上ニ重大ナル政治的意義ヲ有スヘシト記述セリ

本信寫送附先 在華大使 上海 南京 廣東 臺灣外事

課長 新嘉坡

~~~~~

1137 昭和12年1月13日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ベルギー資本による成都・寶鷄間鐵道建設材  
料借款の成立について

第一二三號(極祕)  
「カムレール」前駐日佛國大使ハ五、六日前來平宋哲元其

ノ他ノ冀察要人ト會見ヲ爲シタル模様ナル處昨二十二日當地伯刺西爾公使ノ晩餐會ノ際「カ」ハ自分ハ過去三十五年間東亞問題ヲ鞅掌若ハ研究シ來タル者ナルカ今回退職責任ノ地位ヲ離レタルヲ以テ敬愛スル日本ノ友トシテ卒直ニ自分ノ東亞政局觀ヲ申述フヘシ前堤シ約一時間半ニ亘リ本官ニ内話セル要領何等御参考迄左ノ通り

一、日本ハ現在重大ナル時機ニ臨ミ東亞ノ天地ニ秩序ト平和ヲ齎スカ又ハ不慮ノ事態ニ展開セシムルカハ一二日本ノ外交如何ニ懸リ居レリ自分ノ考ニ依レハ日本カ現状ニ於テ蘇聯ト事ヲ構フル場合支那ハ蘇ニ加擔スヘク又日本カ支那ト事ヲ起ス場合蘇ハ此ノ機ヲ逸セス日本ニ對シ攻勢ニ出ツヘク日本カ蘇支兩國ヲ相手トシテ爭フコトハ國力ハ勿論軍備ノミヨリ言フモ到底不可能ナルコトハ在東京各國外交官及陸海軍武官等ノ一致セル意見ナリ日本ノ軍隊ハ蘇軍ニ比シ優レタル點多々アルモ空軍ニ關シテハ遙ニ劣ルヤニ認メラレ茲四、五年間ニハ蘇聯ノ空軍ニ追付クコト困難ナルヘシ

二、日本カ北滿地方ノ兵備ヲ手薄ニスレハ蘇カ積極的ニ出テ來ル惧アルヘキニ付其ノ地方ノ軍備ヲ充實スル必要アリ

蘇トシテハ差當リ日本ニ對シ積極的ニ出ツル意思ナキカ如キモ極東露領ニ於ケル兵力、兵器、交通其ノ他ノ完備ヲ俟チ事ヲ構フル惧多分ニアリ

三、冀東及綏遠問題ニ付日本カ幾分讓歩スルコト殆ト不可能ナリト信ス

客年十一月日支交渉在東京許世英大使ハ自分ニ對シ日支交渉ハ全然問題ニナラサル旨ヲ洩ラシタルコトアリ冀東、綏遠問題解決セハ日支國父調整ノ可能性ハ五、六十%アルヘシ

四、<sup>(2)</sup>自分ハ滿洲事變當時日本ノ主張支持方ニ付「ボンクール」其ノ他外務當局ニ進言スル所アリタルカ日本ノ爲ニモ當分ハ滿洲國ノ建設ニ專念シ餘リ長城以南ニ手ヲ伸ササル事賢明ナラスヤ滿洲國ニ付キテモ其ノ指導宣シキヲ得サル時ハ一朝事アル際傳<sup>(第2)</sup>儀皇帝以下支那民族ハ日本ヲ裏切ル懸念ナシトセス支那ニ於テ滿洲問題ヲ言フ者アルモ北支問題サヘ解決セハ日支國交調整ハ軌道ニ上ルヘシ自分ハ當地ノ事情ニハ餘リ通セサルモ宋哲元ハ目下ノ處日本トノ摩擦ヲ避ケントシ居ルカ如キモ飽迄南京政府ノ意ニ反シテ日本ト合作スル意思ナキヤニ思ハル

五、蔣介石ハ西安事件ノ善後措置一段落着キ且自己ノ權力回復ノ曉ハ必スヤ北支問題ニ手ヲ伸シ來ルモノト信ス

六、支那ハ外蒙等ノ關係上蘇聯ニ對シ決シテ好感ヲ有スルモノニアラサルモ敵ハ友ナリト言フ佛國ノ諺ノ如ク日本ヨリ壓迫ヲ感シ居ル關係上露國ニ對シ幾分親ミヲ有スルニ遇キス

要スルニ今日ノ支那統一熱乃至聯俄容共ノ素因ハ何レモ日本ニアルカ故ニ日本ノ態度如何ニ依リ是等モ幾分調整

セラルヘシ

七、冀東貿易其ノ他ノ問題ニ關シ英國側ニテハ種々騷立テ居ル處佛國人トシテモ表面免ヤ角言ヒ立テサルモ内心種々不満ヲ抱キ居レリ

最後ニ日獨協定ハ日本ノ失敗ニシテ之カ爲日本ハ多數ノ友人ヲ失ヒタリト述ヘタルニ付本官ハ同協定ニ付内外

ニ種々ノ批判ハアルモ多クハ誤解ニ基クモノナリト應酬シタル後蘇佛同盟コソ佛國ノ大失敗ナリト逆襲シタルニ「カ」ハ自分トンテハ御意見ハ充分了解シ國內ニ於テモ其ノ是非得失ニ付議論アルモ佛國ハ對獨關係上波蘭又ハ蘇聯ノ何レカヲ盟邦ト爲ス必要アリ然ルニ波蘭ハ最近佛

1139 昭和12年4月24日 在米國<sup>斎藤</sup>大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

米國輸出入銀行總裁のピアソンが對中クレジットの可能性を調査するため訪中したとの情報

について

ワシントン 4月24日後発

本 省 4月25日前着

第一一九號

二十三日華府「ユー・ピー」ハ責任當局ヨリノ聞込ニ依レハ「エキスパート・インポート・バンク」社長<sup>(Preston)</sup>Prersonハ祕密ノ經濟的使命ヲ帶ヒテ渡支中ノ趣ニテ同銀行及國務省當局ハ同人ノ訪支ニ付キ説明ヲ避ケ居ルモ同人ハ四月八日

上海到着後約一箇月乃至六週間ノ豫定ニテ對支輸出業者ニ對シ「クレヂット」ヲ與フルコトノ可能性如何ヲ調査シ居ルモノト了解セラルトシ尙之ニ關聯シ消息通間ニ於テハ右ハ歐洲各國殊ニ英國トノ間ニ競争ヲ惹起スル惧アルト共ニ支那カ盛ニ短期借款及商業「クレヂット」(主トシテ鐵道材料)ヲ設定シ居ル際現在ノ米國ニ於ケル原料高及國內需要ノ旺盛ハ支那市場ニ於テ鐵道材料等ニ付キ他國ト競争ハ困難ナルヘキモ或ハ道路建築及礦山用機械ノ販路ハ見出シ得ルヤモ知レスト爲シ居ル旨報セリ御参考迄

紐育ヘ郵送セリ

1140 昭和12年6月7日 在上海岡本總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

仏國滯在中の孔祥熙活動に関する回國新聞報道について

第三四三號 上海 6月7日後発  
本省 6月7日後着  
巴里五日發「アバス」通信ニ依レハ今般孔祥熙渡佛ノ機會

1141 昭和12年6月30日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

米國輸出入銀行による機関車購入代金に係る  
対中クレジットの成立について

1142 昭和12年6月30日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
米中間旧債整理の進捗状況および孔祥熙一行  
の米国での動向につき報告  
第九三號  
往電第九二號ニ關シ

本日當地諸新聞ハ一齊ニ内容殆ト同一ナル二十九日華府發特電ヲ掲載セルカ右要旨ハ同日華府輸出入銀行顧問委員會長 Jones ハ孔トノ會見ノ後同銀行カ支那ノ米國製機關車二十輛ノ購入(十輛宛 Baldwin Locomotive Works 及 American Locomotive Sales Corp ノ)一會社請負ヒ七箇月以内ニ受渡サル(豫定)代金百五十萬弗ノ半額ヲ責任アル一支那銀行ノ保證、利率六分、五箇年据置後月賦償還ノ條件ニテ「ファイナンス」スル旨及將來此ノ種對支借款成立ノ可能性有望ナル而フ聲明シ孔ハ新聞記者團トノ會見ニ於テ支那政府ハ國際「コンソルシアム」ヲ通シテ爲サルルカ如キ公的借款ハ之ヲ望マス鐵道建設材料、自動車、織物機械、製絲機械類等支那五箇年經濟復興計畫ニ必要ナル諸物品購入ヲ可能興味ヲ有シ居ル旨ヲ聲明セリ尙右機關車購入信用ノ成立ハナラシム爾商業信用ノ望マシキ旨ヲ強調シ尙支那政府ハ現在平均約八分利ヲ附シ居ル内外國債ノ低利借換資金獲得ニ最近支那ヲ視察セル「ピアーソン」カ支那政府カ金融的健全性アルヲ報告セル爲ナルベシ云々ト言フニアリ  
英、米ヘ轉電セリ

ニ巴里和蘭銀行、「ラザール」商會、東方匯理、中法工商ノ四銀行カ對支投資聯合銀行團ナルモノヲ組織シ中法ヲ代表者トシテ對支經濟援助ニ乗出スコトトナリ既ニ成渝鐵道建設契約ニ調印シタルカ漬黔鐵道建設契約モ近ク締結ノ運トナルヘク(別途同様ノ聞込アリ)更ニ製糖工場、紡績工場、機械工場等ノ產業開發方面ニモ援助ヲ與フヘク日下研究中ナル趣ニシテ孔祥熙ハ四日同銀行團主催ノ宴席ニ於テ佛蘭西ノ對支援助ヲ謝シ大イニ佛支親善ノ必要ヲ説キタル趣ナリ御参考迄

委細郵報  
支へ暗送セリ

1143 「ハ」カ二十六日一行新聞班長楊光性ト會見シ華府ニ於

テ銀問題ニ闕シ討議スル積リナリヤト問ヒタル際楊ハ問題ハ餘リニ「デリケート」ニシテ意見ヲ述フルハ不可能ナリト答ヘシカ本件ニ闕シ華府官邊ト何等カ検討スル用意アリトノ印象ヲ受ケタル趣ナルカ一十八日紐育「タイムス」華府特電ハ「モ」長官ハ孔トノ會見ノ後新聞記者團ニ對シ孔ノ訪問ハ何等銀問題ニ關聯ナク銀協定ノ變更ハナカルヘシト發表セル旨報シ居レリ

三、「ラ」カ楊ト會見セル際A・P記者カA・P倫敦發ノ信賴スヘキ倫敦金融筋ヨリ得タル報道ナリトテ英政府ハ對支借款ニハ全ク應セサルヘキモ信用カ英國内ニ於テ消費セラルルヲ條件トシ英政府カ保證シテ商業信用ヲ與フルハ可能性多シトノ特(電)ヲ楊ニ示シ意見ヲ求メタルニ楊ハ何等「コメント」セサリシ趣ナル處孔ハ最近再ヒ倫敦ニ赴ク旨ヲ發表シ居リ又「ラモント」ハ既ニ本日「アキタニヤ」號ニテ倫敦ニ向ケ出發セリ

米、英ヘ轉電セリ

1143 昭和12年7月1日 在米国斎藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ニ全ク崩壊シタ夫レ以來ハ政治家ヤ海軍カ豫算獲得ノ爲支那市場ノ有望性ニ言及シタ以外ニハ全ク銀行家、貿易業者

機関車購入代金に係る米中間クレジットの成立は訪中したピアソンが鉄道部と締結したも

ので孔祥熙訪米とは無関係の旨報告

ワシントン 7月1日前発

本省 7月2日前着

第二三四號

紐育發貴大臣宛電報第九二號ニ關シ

三十日須磨參事官カ郭貿易局長ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ今回ノ「クレジット」ハ「ピアソン」渡支ニ際シ張鐵道部長トノ間ニ締結セラレタルモノノ如ク孔使節來米トハ何等關係ナキ趣ナリ

英、紐育ヘ暗送セリ

1144 昭和12年7月2日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

機関車購入代金に係る米中間クレジットの成立に關連して対中借款は慎重にすべきとの米

國紙論説について

1145 昭和12年7月2日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ハ支那ヲ見放シタ次第テアル資源カ限ラレ生活水準カ低イ支那ヲ素晴ラシイ輸出市場トスルニハ永イ時日ヲ要スルト言フノカ實際狀態タ米國カ今支那ニ投資シヨウト言フノナラ輸出入銀行カ執ツテ居ル注意深イ消極政策テ臨ムヘキテアル

ニ一日ノ「バルチモア・サン」ハ「對支投資」ト題スル論說ヲ掲ケ次ノ如ク論シタ

輸出入銀行ハ百五十萬弗ノ機關車對支輸出ノ半額ヲ金融スルニ決シ同時ニ同銀行顧問「ジエス・ジョーンズ」ハ近イ將來ニ於ケル此ノ種信用許與ノ可能性アルヲ聲明シタ此ノ政策變更ノ重要性ハ看過スルコトハ出來ナイ近來國民政府カ自「ノ地位ヲ固メ支那經濟ニ安定ヲ與ヘルニ成功シタトノ報道ハ最近極東ヲ調査旅行シタ米國銀行家協會々長「ルイス・ピアソン」ニヨリ確認サレタ様タカ支那カ三十年乃至四十年前ニ米人カ期待シテ居タ様ナ素晴シイ投資市場ニ突如トシテ發展シタ思ツタラ大間違タ當時ハ支那市場ヲ買被リ過キテ野心的ナ時ニハ馬鹿々々シイ様ナ投資計畫ヲ樹テタモノタカ是等ハ一九一一年ノ支那革命カラ一九一三年ノ「ウイルソン」大統領ノ國際金融借款團計畫迄ノ間ニ全ク崩壊シタ夫レ以來ハ政治家ヤ海軍カ豫算獲得ノ爲支那市場ノ有望性ニ言及シタ以外ニハ全ク銀行家、貿易業者

往電第九三號ニ關シ

「、「ラ」カ「モルガン」商會Malcolm Simpson(對外借款ニ

關スル事務ヲ主管ス)ヨリ得タル情報ニ依レハ冒頭往電

ノ一二所謂昨年ヨリ本年ニ懸ケ主トシテ倫敦ニ於テ整理案ノ成立ヲ見タル對支借款トハ左ノ通リナル趣ナリ

イ、一九〇八年及一九一〇年津浦鐵道第一次及第二次借款六百十五萬磅

口、津浦鐵道獨逸銀行出資借款九十萬磅  
ハ、河南鐵道借款四十九萬五千七百磅

ニ、廣東九龍鐵道借款百十萬磅

ホ、滬海鐵道借款四百萬磅、三千七十五萬盾、一億三千

七百七十四萬白耳義法、五百萬元、二千百一十五萬佛

國法

ヘ、湖廣鐵道借款五百六十萬磅

ト、「マルコニー」無線借款六十萬磅

チ、「ビツカース」飛行機借款百八十万磅

リ、市俄古銀行借款五百五十萬弗

三、尙「シ」ハ支那政府ハ内外債(脱)ニ商業信用以外ノ借款

ニ興味ヲ有スル旨ノ聲明ニ對シ(往電第九號末段參照)南京政府ハ昨年一月借替ノ爲十三億弗ノ新内債ヲ發行シタルニ鑑ミ借替ノ爲ノ新借款ハ解シ難シト述ヘタル趣ナリ

三、全米貿易評議會長「トーマス」ヨリ「ラ」ヲシテ入手セ

シメタル情報ニ依レハ客年往電第一二四號京漢鐵道及京漢鐵道カ南京政府ノ保障ノ下ニ契約セル借款整理ノ爲

ノ「フォーブス」案ハ結局成立セス最近米國鋼鐵電機及

鐵道用具關係左記九社ノ對支債權總契約一千萬弗ハ個々ニ支拂案成立セル趣ナリ  
「アメリカン、ロコモーチブ」「ボーリドウイン、ロコモーチブ」「ジエネラル、アメリカン、トランスポーテイション」「インダーナショナル、ジエネラル、エレクトリック」「アンダーセンマイヤー」「國際電信電話」「スタンダード、オイル」「ユー・エス、スチール」

四、尙「ト」ハ輸出入銀行ノ現在千五百萬弗ニ上リ居ル對支棉麥借款(客年往電第六七號)ヲ長期ニ借換フル計畫アル旨述ヘ該案ハ「ト」自身カ「ピアソン」ニ提出中ナル由ナリ

何等御参考迄

英へ轉電アリタシ  
米へ暗送セリ

1146 昭和12年7月14日 在仏国内山(若太郎)臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

孔祥熙の対仐借款交渉は成果がなく對中國四  
國借款團もほとんど無用の存在であるとの仐

国外務省アジア局長内話について

パリ 7月14日後発  
本省 7月15日前着

第三六一號

往電第三五四號亞細亞局長往訪ノ際孔財政部長來佛ノ當時  
佛國ヨリ借款ノ噂アリタル處何等根據アリヤト尋ネタルニ

全然ナシトテ英國ノ一千萬磅借款ニ付テモ二百萬磅鐵道施

設ノコトハ聞キタルモ斯ク多額ノ借款ニ付テハ聞込ナシト

答ヘタルニ付然ラハ英國側ニテ問題ト爲シ居ルヤニ承知ス

ル對支借款團解散ノ話ニ付テハ如何考フルヤト問ヒタルニ

借款團ハ未タ曾テ重要ナル役割ヲ演シタルコトナク殆ト無

用ノ存在ナリ故ニ佛國銀行團之ヲ解散スルニ同意セハ佛政

府ハ之ニ對シ贊意ヲ表スヘシト述ヘ居リタリ御參考迄  
英、米ヘ暗送セリ

1147 昭和12年7月17日 在ニューヨーク(若杉総領事)より  
広田外務大臣宛(電報)

孔祥熙の対米交渉では長期借款契約は成立し  
なかつた旨報告

付記

昭和十二年八月三十日付在伊國堀田(正昭)大

使より広田外務大臣宛公信公第一三八号

歐米諸国での活動に関する孔祥熙の新聞談話

報告

ニューヨーク 7月17日後発  
本省 7月18日前着

第一〇九號(極秘級)

其ノ後「ラ」ノ得タル情報ニ依レハ

一、往電第九六號第四項「トーマス」ノ計畫セル棉麥借款千

五百二十萬弗長期借換ノ件ハ米國政府ニ於テ即座ニ拒絕

セル趣ニテ孔ノ最希望セル長期借款ハ政府ヨリモ民間ヨリモ得ラレサリシ趣ナリ

二、往電第九二號機關車購入ニ要スル百六十萬弗融資ノ件ハ

「ピアソン」支那視察ノ結果成立セル旨傳ヘラレ居ルモ

實ハ同人ノ訪支以前即チ孔ノ來米以前 Andersen Meyer

「カンペニー」ノ手ニ依リ事實上出來上リ居タルモノナ

ル由

三、前掲往電中段孔ノ希望スル對支信用許與ニ關スル各種計

畫ハ今次事變ノ結果成立困難トナレリ

四、(以下極祕)

華府筋ノ空氣ハ極メテ實際的ニシテ假令日本ト支那ノ衝突相當擴大ストモ恐ラク中立法ノ適用ハナカルヘシ右ハ(假令之ヲ適用スルモ「キアツシユ・アンド・キヤリー」)

條項ニ依リ海軍力強キ日本側ノミ利益ヲ受クル結果トナルベシトノ理由ハ別トルモ米國政府トシテ莫大ナル對日貿易ヲ危殆ニ導クカ如キコトヲ爲ス地位ニアラサレハナリ(本項ハ「ク」カ商務省金融顧問 Grosvenor Monroe Jones 及同通商顧問 Charles Moser 並ニ財政長官附「アツシスタン」Hubert Gaston 其ノ他華府官邊筋ヨリ得タル情報ナリ出所極祕扱ヲ請フ)(極祕終)

五、往電第一〇六號ニ關シ孔ノ行先ハ表面上獨逸 Nanheim トナリ居レリ又揚光生<sup>(楊光生)</sup>ハ當地ニ居残リ居レリ英、米ヘ轉電セリ

(付記)

公第一三八號

(9月22日接受)

昭和十二年八月三十日

在伊

特命全權大使 堀田 正昭〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

孔祥熙ノ伊國新聞記者トノ「インタービュー」ニ

關スル件

南京政府財政部長孔祥熙ハ鐵道副部長 Tseng 陸軍大佐 O. W. Kuo 及書記官五名ト共ニ維納經由八月十八日夜在伊支那大使等ノ出迎ヲ受ケ「ヂエノバ」市ニ到着、翌十九日同地出帆ノ Scharnhorst 號ニ乘船歸國セルカ出帆前往訪セラ新聞記者ニ對シ孔ノ爲セル談話トシテ當國新聞ニ掲載セラルルトコロ要領左ノ如シ

先ツ孔ハ「華盛頓滯在中米國大藏大臣 Morgenthau トノ間ニ一協定ヲ締結セルカ右ハ支那側ヨリ米ニ對シ多量ノ銀ヲ賣却スルト共ニ支那ハ其ノ通貨安定ノ爲米ヨリ多量ノ金ヲ購入セントスルモノナリ尙支那幣制強化ノ爲米ヨリ多額ノ融資ヲ受クルノ約ヲナシタルノミナラス在華盛頓 Export

Import Bank ロモ支那鐵道ニ使用スヘキ米國產材料購入ノ爲巨額ノ貸出ヲ受クルコトナレリ」ト述べ「倫敦及巴

里ニ於ケル會談ノ模様如何」トノ質問ニ對シテハ「七月十九日倫敦ニ歸還セル余ハ英首相及「イーデン」外

相ト重要ナル會談ヲ遂ケ同會談中ニ於テ極東ニ於ケルアラユル問題ヲ檢討セリ又同地ニ於テハ Chinese Central

Railways Ltd トノ間ニ廣東—Meihsin(陝西省 Meihsiem )ノ誤<sup>(誤)</sup>間ノ鐵道建設ノ爲三百萬磅及 Pukow(浦口) —

Siangyang(襄陽)間ノ鐵道建設ノ爲四百萬磅ノ一借款ノ他、英ヨリ支那內債整理ノ爲二千萬磅ノ借款取極ニ成功セリ巴

里ニ於テハ「ショーテン」首相ト會談セル他佛國銀行團ヨリ支那在外準備金增加ノ爲借款ヲ仰クコムトセリ」(此ノ

佛國銀行團ヨリノ借款ノ金額ニ付テハ孔ハ言及セサリシモ相當多額ノモノナルヘシト傳ヘラル)

次ニ「柏林ニ於テハ如何」トノ問ニ對シ「柏林ニ於テハ

右何等御參考迄報告申進ス

~~~~~